

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハートまきの学館		
○保護者評価実施期間	R7年 10月 1日		～ R7年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	R7年 10月 1日		～ R7年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な活動を通して、子どもの成長に応じた経験や学びの機会を提供している	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長やニーズに合わせた療育内容の検討 公園、体育館、プール等、様々な場所での療育の実施 グループ活動と個別活動を併用した支援の実施 工作、クッキング、お出かけ、外食体験等、生活経験を重視した活動の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に実施される研修へ参加し、支援の質の向上を図る 他事業所による合同療育を通して、より多様な経験の機会を提供する 異性との適切な距離感、関わり方について成長段階に応じた支援を行う
2	子どもが安心して過ごし、主体的に活動できるよう、遊び道具や設備環境の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 活動が固定化されないよう、様々な遊びや活動を取り入れている 自由時間において、子どもが自分で遊びを選択できるように配慮している 子どもの成長や発達に応じて、必要なツールや設備環境の検討を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長に応じた遊びやツールの見直し・導入 安全管理および設備の定期的な点検・メンテナンスの実施
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフ間での支援方法や関わり方に差が生じることがある。	統一した支援を行う為の取り組みは実施しているものの、支援に対する捉え方や経験の差により、児童への関わり方や距離感に個人差が生じているため。	日々のミーティングやケース検討を通して、支援内容や対応について認識のすり合わせを行うとともに、支援後の振り返りを継続的に実施し、スタッフ間で共通理解を深めていく。
2	業務における最終確認が不十分な場合があり、児童の忘れ物が発生することがある。	業務終了時の確認手順が十分に共有・定着しておらず、最終確認が不十分なことがあるため。	声掛けや確認を徹底し、スタッフ間で連携を行い、忘れ物防止に努めていく。また送迎時には車内に忘れ物がないかスタッフの目で確認を行う。
3			

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハートまきの学館		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 1日		～ R7年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	R7年 1月 1日		～ R7年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な活動を通して、子どもの成長に応じた経験や学びの機会を提供している	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長やニーズに合わせた療育内容の検討 公園、体育館、プール等、様々な場所での療育の実施 グループ活動と個別活動を併用した支援の実施 工作、クッキング、お出かけ、外食体験等、生活経験を重視した活動の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に実施される研修へ参加し、支援の質の向上を図る 他事業所による合同療育を通して、より多様な経験の機会を提供する 異性との適切な距離感、関わり方について成長段階に応じた支援を行う
2	子どもが安心して過ごし、主体的に活動できるよう、遊び道具や設備環境の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 活動が固定化されないよう、様々な遊びや活動を取り入れている 自由時間において、子どもが自分で遊びを選択できるように配慮している 子どもの成長や発達に応じて、必要なツールや設備環境の検討を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長に応じた遊びやツールの見直し・導入 安全管理および設備の定期的な点検・メンテナンスの実施
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフ間での支援方法や関わり方に差が生じることがある。	統一した支援を行うための取り組みは実施しているものの、支援に対する捉え方や経験の差により、児童への関わり方や距離感に個人差が生じているため。	日々のミーティングやケース検討を通して、支援内容や対応について認識のすり合わせを行うとともに、支援後の振り返りを継続的に実施し、スタッフ間で共通理解を深めていく。
2	業務における最終確認が不十分な場合があり、児童の忘れ物が発生することがある。	業務終了時の確認手順が十分に共有・定着しておらず、最終確認が不十分なことがあるため。	声掛けや確認を徹底し、スタッフ間で連携を行い、忘れ物防止に努めていく。また送迎時には車内に忘れ物がないかスタッフの目で確認を行う。
3			

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドハートまきの学館					公表日	R8年 2月 10日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	4	児童の状況によっては人員基準を満たしている場合でも、安全面への配慮を優先し、職員を手厚く配置しています。	人員体制のさらなる充実 職員のスキルアップの推進	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		児童の状況に応じてパーティションを活用したり、1階と2階を使い分けることで個別の空間を提供しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	定期的にスタッフミーティングを実施し、全職員が参加する形で業務改善に取り組んでいます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎朝職員間でミーティングを行い、日々の情報共有や意見交換を通して業務改善に繋がっています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		社内研修を定期的に行い、職員の知識や支援技術の向上に努めています。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムを作成し、ホームページにて公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		定期的に事業所合同会議を実施し、療育内容について研修や意見交換を行う機会を設けています。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日のミーティングに加え、情報共有を行っています。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		管理者および児童発達支援管理責任者が出席し、関係機関との連携を図っています。		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6				
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6				
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6				
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	2			
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			送迎時や電話等を通じて、子どもの様子や状況について情報共有を行っています。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6					
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6				
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			定期的な面談に加え、必要に応じて随時面談や助言を行い、保護者支援に取り組んでいます。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2			
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6				毎月通信を発行するとともに、ブログ等を通じて活動の様子や行事予定をお知らせしています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6				
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定するとともに、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6				各種マニュアルを整備し、職員への周知を行うとともに定期的な訓練等を実施しています。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6				
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6				
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6				
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6				
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6				
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6				
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6				

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドハートまきの学館					公表日	R8年 2月 10日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	4	児童の状況によっては人員基準を満たしている場合でも、安全面への配慮を優先し、職員を手厚く配置しています。	人員体制のさらなる充実 職員のスキルアップの推進	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		児童の状況に応じてパーテーションを活用したり、1階と2階を使い分けることで個別の空間を提供しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	定期的にスタッフミーティングを実施し、全職員が参加する形で業務改善に取り組んでいます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎朝職員間でミーティングを行い、日々の情報共有や意見交換を通して業務改善に繋がっています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		社内研修を定期的に行い、職員の知識や支援技術の向上に努めています。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムを作成し、ホームページにて公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		定期的に事業所合同会議を実施し、療育内容について研修や意見交換を行う機会を設けています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日のミーティングに加え、情報共有を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	1	子どもの意思を尊重し、自ら選択や自己決定ができるよう、職員が適切な支援や声掛けを行っています。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		管理者および児童発達支援管理責任者が出席し、関係機関との連携を図っています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		事前に学校やご家庭に下校時間の確認を行い、必要に応じて情報共有を行っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	公園への外出時などに地域の子どもと関わる機会を設けています。	より多様な交流の機会を持てるよう、地域との関わり方を検討しています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1		
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時や電話等を通じて、子どもの様子や状況について情報共有を行っています。		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6				
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		定期的な面談に加え、必要に応じて随時面談や助言を行い、保護者支援に取り組んでいます。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4	2		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月通信を発行するとともに、ブログ等を通じて活動の様子や行事予定をお知らせしています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各種マニュアルを整備し、職員への周知を行うとともに定期的な訓練等を実施しています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6				